

國學院大學學術情報リポジトリ

『国際研究フォーラム「日本の宗教文化を撮る」 Capturing Japanese Religious Culture』の刊行

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001540

『国際研究フォーラム「日本の宗教文化を撮る」 Capturing Japanese Religious Culture』の刊行

本書は、2021年12月11日（土）に國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所の主催で開催された国際研究フォーラム「日本の宗教文化を撮る」における各発表を、報告書としてまとめたものである。



報告書表紙

開催概要は既に本誌第15号トピック1（7～9頁）にて紹介されているため、ここでは報告書の構成と内容に焦点を絞って示す。

URL：<https://www.kokugakuin.ac.jp/research/oard/ijcc/ijcc-publications/forum-cjrc2021>



【報告】7～14頁

「仏像の3D計測と「お身代わり仏像」—仏像盗難と地域社会の現在—」

大河内智之、奈良大学准教授

【報告】15～27頁

「いまドキュメンタリーを撮るということ—寺院のCOVID-19対応から考える—」

ティム・グラフ、マンチェスター大学講師

【報告】29～40頁

「カジュアルに真面目に、映像（映画・ドラマ・

番組）で伝える神社」

山咲藍、映像制作会社スタジオブルー脚本家・プロデューサー

※執筆者の肩書きは 本書刊行当時のもの。

本書の編集は、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所のメンバーが行った。

大河内氏は、和歌山県立博物館と和歌山県立若山工業高等学校が連携しながら進める、3Dスキャナーを用いた文化財の計測と3Dプリンターによる造形化に関する活動を中心に報告している。当活動の目的には、展示のユニバーサルデザイン化に対応した“さわれる”資料の作成、文化財の盗難防止対策への活用がある。

グラフ氏は、2021年に寺院がいかにしてCOVID-19に対応したかをテーマにして作成した映像、その制作から配信に至るまでの流れ・方法を中心に報告している。この映像は、同テーマの学術論文とあわせてドキュメンタリーとして公開したもので、論文内容を理解する一助として、また教育の手段としての映像の可能性が示された。

山咲氏は、神社をテーマとする番組『ニッポン神社めぐり』の制作の流れについて報告している。制作過程の説明では、記録する“ドキュメンタリー”と人を楽しませる“エンターテインメント”の両面を有するTV番組において求められる、視聴者や撮影先の神社に向けた配慮の重要性を述べる。

本書を通じて、宗教文化を“撮る”にあたっての技術や配慮といった実践的な手法に関する見識を広げるとともに、撮った写真・映像の活用について、諸場面におけるそれぞれの展望が示された。

（川嶋麗華）